

平成 2 1 年度第 2 回和光市次世代育成支援対策地域協議会会議録

| | |
|-----|---|
| 日 時 | 平成 2 2 年 2 月 9 日 (火) 1 3 : 3 0 ~ 1 4 : 1 0 |
| 場 所 | 和光市庁舎 6 階 6 0 2 会議室 |
| 出席者 | 西郷委員長 小野委員 木暮委員 待鳥委員 (欠席者) 森田圭子副委員長 一柳委員 榎本委員 神杉委員 木村委員 小泉委員 中尾委員 長谷委員 三浦委員 森田一幸委員 |
| 事務局 | 保健福祉部 田中部長 こども福祉課 久保課長 亀井課長補佐 横山副主幹 中野主査 (株) ぎょうせい総合研究所 八木主任研究員 |
| 傍聴者 | 3 名 |

亀井課長補佐

本日は、大変お忙しいところご出席をいただきまして、ありがとうございます。ただいまから、平成 2 1 年度第 2 回和光市次世代育成支援対策地域協議会を開会いたします。

(資料確認)

(会議公開・会議録要点記録の説明)

亀井課長補佐

それでは、議題に入りますので、ここからの進行は、和光市次世代育成支援対策地域協議会設置要綱第 5 条第 2 項の規定に基づき、委員長をお願いいたします。西郷委員長、よろしくをお願いいたします。

西郷委員長

議題 1 「実施事業の評価について」では、始めに事務局が説明した後、各委員から意見を伺います。事務局から説明をお願いします。

中野主査

使用する資料は、事前配付資料「次世代育成支援対策地域協議会での事業評価に係る発言要旨」と、本配付した「参考資料 1 評価の時期及び事業評価に係るスケジュール」、「参考資料 2 現在使用している評価調書」、「参考資料 3 目黒区の事業評価資料」です。「次世代育成支援対策地域協議会での事業評価に係る発言要旨」は、過去の地域協議会で委員の皆様からいただいた、実施事業の評価についての意見をまとめたものです。

「参考資料 1 評価の時期及び事業評価に係るスケジュール」は、上の表が事業評価をする時期を記したものです。下の表は、地域協議会での評価方法の検討予定を記載し

たものです。「参考資料2 現在使用している評価調書」は、各年度の事業実施状況を調査する際に使用している調書の記入例を基に作成した資料です。「参考資料3 目黒区の事業評価資料」は、目黒区で使用している評価資料を抜粋したものです。右上に目黒区『重点事業』と記載した資料は、目黒区が重点施策のうち、新規・充実・拡大に該当する事業及び国又は東京都へ目標事業量を報告する事業について作成している資料です。『重点事業以外の事業』は、『重点事業』以外の事業についての評価資料です。

以上の資料を参考に、・事業評価の基準をどうするか、・評価を誰がすべきかについてのご意見がございましたら、お聞かせ願いたいと思います。

「事業評価の基準をどうするか」は、現在の各課による自己評価に明確な基準がありません。そのため、後期計画の進行管理においては、事業の進捗率に応じて、目標数値のある事業は、「目標数値の80%以上をA評価とする」などの基準を評価に基準を設けようと考えております。また、目標数値のない事業につきましても、目標数値のある事業と同様の進捗率にて評価するなどの基準が必要と考えております。

「評価を誰がすべきか」は、現在の評価は主管課による自己評価としておりますが、後期計画においても同様とするのか、それとも地域協議会を含めて、第三者による評価をすべきなのか、ご意見をいただけたらと思います。

なお、後期計画の評価は、お手元の「参考資料1」の上の表のとおり、平成23年度から実施することとなります。つきましては、本日の審議結果を本年7月15日に新たに委嘱予定の新委員の皆様にもお伝えし、審議した後に決定したいと思います。

西郷委員長

ただ今、事務局から説明が終わりました。ご意見等がありましたら、伺いたいと思いますので、よろしく申し上げます。

待鳥委員

目標値に対しての評価であると、目標値自体が適切かどうかという問題が生じると思っています。また、地域協議会が評価するためには、評価の基準を共有する必要があるため、やや負担が大きいのではないのでしょうか。

小野委員

A評価は、もっと高い達成率の場合ではないのでしょうか。

木暮委員

D評価の場合はその事業を無くし、C評価の場合は縮小する等にしなければ評価する

意味がないのではないかと思います。そのような扱いをしなければ、事業だけがどんどん増える気がします。また、評価の実施者は、主管課が相応しいと思います。重点事業のみ地域協議会が評価するという考え方は良いと思います。

西郷委員長

評価による何らかのアクションが必要だということですね。評価と数値目標の達成度は違うものなので、評価の要素の一つとして数値目標が入るのは良いと思います。そのため、総合評価の方が評価としては相応しいのではないのでしょうか。「A評価はそのまま実施すべき」、「C評価やD評価は改善や工夫が必要な事業である」というような評価をすべきです。曖昧ではあるものの行政としての姿勢は見える、という評価の仕方が良いのではないのでしょうか。アウトプットの目標数値の無い事業も同様に評価できると思います。

待鳥委員

目黒区の評価では、第三者も含めた評価が行われているようですので、その点は良いと思います。

小野委員

理想は、事業に参加した方による評価だと思いますが、実際には全ての事業で評価することは難しいと思います。定期的に事業の参加者からの評価をしてもらい、その結果を踏まえて主管課で評価していただくことが良いのではないのでしょうか。また、委員が事業に参加して、評価することも良いと思います。

西郷委員長

重点事業が12なので、各委員がバラバラに参加してみることはできると思います。評価の主体は、主管課と利用者ということですね。

木暮委員

主管課が主体で、自信を持って評価すべきだと思います。

西郷委員長

利用者評価は、評価の軸になります。主管課は、事業目的に対しての評価をする必要があります。重点事業を中心にして、委員からのご指摘のあった事業を加えたものを評価対象事業として、地域協議会が意見を加えるということになるのでしょうか。

また、目黒区の評価票が参考資料にあります。目黒区では、重点事業のみを詳細に、課題や解決策まで主管課に書いてもらった後に地域協議会で評価しているので、そのような形も良いのではないのでしょうか。

まとめますと、評価者は、当事者と利用者として、重点事業については、第三者評価も加えて行うことにします。評価の根拠や事業目標も記載することにしたいと思います。他にご意見がないようでしたら、議題2「その他について」説明をお願いいたします。

中野主査

会議終了後、会議録を作成し、市HP・市役所1階行政資料コーナー・図書館で閲覧できるようにします。次回の会議は、7月中旬を予定しているため、この会議が現委員での最後の会議となります。2年間に渡り、現計画に基づく施策の推進に資するため、施策に関する進捗状況の確認、事業の評価及び提言をいただき、ありがとうございました。

西郷委員長

事務局から説明が終わりました。他にないようですので、これで議長の席をおりたいと思います。

本日はお忙しい中、色々のご意見等を頂きましてありがとうございました。本日はこれにて閉会させていただきます。どうもありがとうございました。